

【平成15年度専修学校社会人キャリアアップ教育推進事業】

事業名	「医療・福祉系専門学校における卒後教育支援システムの開発」		
学校法人名	学校法人 西野学園		
学校名	札幌リハビリテーション専門学校		
代表者	前鼻 英蔵	担当者・連絡先	山本皓一 (03)3200-7171 yama-ko@jade.dti.ne.jp
<p><事業の概要></p> <p>医療・福祉系専門学校における教育カリキュラムは、国家資格等の資格取得に向け多く授業時間を費やし、卒後に業務遂行上求められるスキルは、就職先にて実地に学んでいる状況である。従って、卒後教育や再就職に必要な技術、情報等を提供し、再教育可能な支援システムを作成することで、再就職やスキルアップに役立てる。</p> <p><成果></p> <p>本調査は設置主体を診療所から中規模病院及び福祉施設を対象とし訪問視察を行った。これは、多くの職種に於いて専門学校卒の従業員の比率が高い傾向があるという理由による。また、医療・福祉用器械や技術が、年々飛躍しているため、新しい技術を修得しなければならない状況に置かれている。更には、これら施設ほど今回のテーマである職員のキャリアアップを望んでおり、且つ卒後教育や施設内研修に悩みを持つ施設でもあるのである。これらの研修の主たる内容は、施設内における技術向上が主であるが、本来、一般企業でおこなわれている社会人としてのスキルアップ研修は、多くの施設でその分野での立ち後れといった側面が指摘されている。</p> <p>通常医療・福祉現場では日常的にOJTが中心におこなわれており、集団研修は主に外部への研修会の参加が中心であることは、各施設の調査報告からも明らかである。このことは、いわゆる職員気質の職場であったことから、研修体制が一般企業並みに確立することが遅れていることに因を発していると考ええる。また、近年施設はサービス業という認識が強まっていることから、今まで手を付けていなかったこの部分を強化する動きもある。</p> <p>以上の現地実態調査の結果をまとめ、研究会において討議検討を行うことにより、幾つかの問題点の指摘と改善のために必要な内容をまとめることができた。それを基に模擬授業の内容決定と基本的なカリキュラムの作成を行なった。</p> <p>今回目標とした卒後教育の内容は3つの部門に分けることができる。まず第1は人間の能力や対人関係、基本的な仕事に対する意識などを再確認し、かけているものを浮き彫りにするカリキュラムである。次に、医療施設におけるコンピュータの活用と事務処理能力の向上のために必要な実習を用意した。最後に、将来的ではあるが、卒後教育についても居ながらにしてコンピュータや携帯端末を使うことによってわずかの時間でも教育を可能に出来るように試みてみた。</p> <p>実際に卒後教育を行う場合も、仕事先の施設や病院で行う場合や、研修として派遣できる場合は問題が無いけれども、70時間以上の学習を行うことは仕事を持っている者には厳しいものである。失業者再雇用の講座として行えば十分かもしれないが、最終的には仕事を持つ者にも、インターネットによる教育システムが設備されていつでもどこでも自由に講座を学ぶことが出来るようになることが希望である。</p>			